2024年度　　公 募 推 薦 選 抜 問 題（90分）
Ａ　日　程　11月11日(土)

基礎学力テスト

英　　語 …… １～７ページ
数　　学 …… ９～12ページ
国　　語 ……13～25ページ

注　意　事　項

１．試験開始の合図があるまで，この問題冊子の中を見てはいけません。
２．上記の科目から２科目選択してください。
３．解答用紙には，英語・国語(赤色)・数学(青色)の３種類があります。
４．試験開始後，解答用紙に受験番号と名前を必ず記入し，受験番号をマークしてください。
５．解答はすべて解答用紙の解答欄にマークしてください。
６．問題用紙の余白は計算に使用してもかまいませんが，解答用紙を汚してはいけません。
７．試験開始後，問題用紙・解答用紙に落丁・損傷がないか確認してください。
８．数学の問題の冒頭には「解答上の注意」が記入されていますので，必ず読んでから解答してください。
９．解答済みの答案は，２科目重ねて提出してください。
10．不要になった解答用紙も回収します。
11．試験終了後，問題用紙は持ち帰ってください。

国語

1 次の問い（**問1～3**）に答えなさい。

問1 ア～ウの傍線部のカタカナに相当する漢字を、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つ選びなさい。 **1** 、 **2** 、 **3**

ア ハンヨウ性の高い新素材を開発する。 **1**

① 版　② 販　③ 氾　④ 汎

イ 最新のシステムがカドウ中だ。 **2**

① 苛　② 稼　③ 加　④ 暇

ウ 久しぶりに帰郷しカイコの念に駆られる。 **3**

① 悔　② 懐　③ 戒　④ 怪

問2 ア～エの四字熟語の空欄 **4** ～ **7** に入る漢字を、次の①～⑨の中からそれぞれ一つ選びなさい。 **4** 、 **5** 、 **6** 、 **7**

ア 彼の窮状は自 **4** 自得で仕方のない面もある。

イ 緊張が高まり、二つの国は一触 **5** 発の状態にある。

ウ 感情に任せた軽挙 **6** 動を戒める。

エ 疾風迅 **7** の勢いで業界のトップに躍り出た。

① 猛　② 即　③ 剛　④ 雷　⑤ 妄

⑥ 則　⑦ 業　⑧ 合　⑨ 来

問3 ア～ウの筆者の著作を、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つ選びなさい。 **8** 、 **9** 、 **10**

ア 野上弥生子（のがみやえこ） **8**

① 『にごりえ』　② 『真知子』　③ 『流れる』　④ 『みだれ髪』

イ 谷川俊太郎（たにかわしゅんたろう） **9**

① 『世界は一冊の本』　② 『第百階級』　③ 『表札など』　④ 『二十億光年の孤独』

ウ 火野葦平（ひのあしへい） **10**

① 『麦と兵隊』　② 『沖縄の手記から』　③ 『野火』　④ 『桜島』

2　次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えなさい。

共感という経験は対人関係における感情共有の確信であり、共感が生じると多くの場合、相手に対して親和的な感情（親しみ）が生じ、他人事（ひとごと）ではないと感じられる。喜びへの共感であれば、自分のことのように嬉（うれ）しくなり、「よかったな」と声をかけるだろう。悲しみへの共感であれば、涙があふれ、慰めるであろうし、苦しみに共感すれば、助けてあげたいと感じ、助力を惜しまないことも少なくない。

この時、自己了解（自己の感情への気づき）と同時に、他者の感情了解が生じている。自己了解が「自分がどうしたいのか」という欲望を告げ知らせる以上、共感は「他者がどうしてほしいのか」を理解し、相手が望む行為の選択を、つまり利他的行為を可能にするのである。

もちろん、自分の感情と相手の感情が同じである、という保証はない。だが、私たちは共感を手がかりにして、相手に気持ちや望みを言葉で確認することができるし、それによって適切な対応を取ろうとする。そうやって経験を何度も積み重ねるほど、次第に的を外すことなく相手の感情を理解できるようになり、適切な対応が可能になる。

こうした理解力を培うには、言葉と想像力、推論する理性の力を身につけることが必要である。それは、人間の共感を動物の共感と区別する上でも重要なものだと言える。

A人間と動物の共感の大きな違いは、言葉で相手の気持ちを確認できることだ。共感は相手と自分の感情が同じであるという確信だが、言葉がなければその確信が正しいかどうかを知ることはできない。言葉があるからこそ、共感が勘違いだった場合に確認できるし、正解だったと喜ぶこともできる。そして、こうした自分の共感による他者理解が正しいか間違っているのかを知る、というフィードバックの経験が繰り返されることで、私たちの共感の精度（当たっている確率）は高くなる。言葉による相互理解がなければ、［　X　］可能性があるのだ。

また、言葉の使用は人間に独自な意味の世界の共有をもたらしている。言葉は感情を細分化するため、共感される感情も微細に区分され、微妙な感情の違いの共有をも可能にする。しかも人間は、嫉妬や恥、羨望のような自我に関わる感情もあるため、さらに共感の対象は複雑になる。自他未分の状態から自己が確立され、自己イメージが言葉によって「私」として具体化されるとき、そこに自己価値に関わる感情が生み出される。

たとえば、怒りや苦しみは動物にも共感できるかもしれないが、嫉妬や羞恥心、自尊心に関する共感が生じることはないだろう。それは自我のある人間だけが持つ感情であり、言葉による感情の細分化を経ているからこそ生じ得るのだ。

人間の場合、想像力と推論の力（理性）によって、さらに複雑な共感が可能になる。

私たちは目の前の世界を生きているだけでなく、実在しない架空の世界、ずっと先の未来の世界にも想像の中で生きることができる。様々な記憶をたどり、知識を駆使して予想し、推論し、多様な状況を想像することができるのだ。このような想像的な世界もまた、言葉によって分節された意味の世界に基づいている。

こうした想像力、推論する力は、当然、他者の内面世界にまで及び、私たちは他者の内面を想像し、他者の状況を考慮することで、他者の思考や感情を推理することができる。そして、他者の感情や思考、価値観の中に自分と同一なもの、重なるものを見出（みいだ）せば、共感が生じることになる。それは、感情が同期してリアルにその感情状態に没入する情動的共感とは異なり、相手との同一性を認識することで感じる認知的共感であり、自我がめばえ、言葉が使えるようになり、想像力、推論する理性の力が形成された段階で生じる、人間に特有な共感なのである。

このような共感は、高度な認知能力にともなう共感であり、それは文化の異なる見知らぬ他者への共感を生み出す上でとても重要なものだと言える。

B私たちは見知らぬ人よりも知り合いに対して共感が生じやすく、文化や価値観が同じ人間のほうが共感しやすい面がある。それは、自分と似たような境遇や状況の人のほうが、内面を想像したり、推測したりしやすいからだ。このような共感は、相手と同じ価値観、感受性、考え方であることを強く意識させ、仲間だという意識を強化する。もっと言えば、人間が集団を形成し、社会において共通のルールを守り、協調していく上で、共感はとても重要な役割を果たしているのであり、(注1)ヒュームが述べているように、共感こそが文化を形成する、と言えるかもしれない。

ともあれ、共感は相手に対して親和的な感情を生み、相手のための行動を惹き起こす。共感が道徳的行為の動機となるのもうなずける。困っている人、苦しんでいる人に共感すれば、そこから同情や憐憫などの感情が二次的に生じ、助けなければ、慰めなければ、という当為、行動が生じ得る。

この点は認知的共感も情動的共感も変わらない。サルやイルカ、クジラも苦しんでいる仲間に共感し、助けようとする。まだ言葉を使うことができず、想像力や理性の力の弱い幼児でも、泣いている子を慰めようとする。想像力や推論の力が必要な認知的共感ではなく、感情が同期するだけの情動的共感であっても、相手の視点に立てる力があれば、利他的行為は惹き起こされるのだ。

ただし、認知的共感は利他的行為をより適切な方向へ導く力を持っている。自分の中に湧き上がった感情に衝き動かされるだけでなく、想像力と推論によって、相手の立場、状況を考慮して行動できるからだ。また、情動的共感ほど熱くならず、比較的冷静に対処することもできる。

共感は人間にとって、利他的行為、道徳性の動機となる、とても大事な現象なのである。

共感によって生み出される利他的行為は、苦しんでいる相手を手伝ったり、相手の救いになるように取り計らったりするだけでなく、相手の気持ちを受けとめたり、話を聞いてあげたりするなど、精神的なケアも含まれる。

共感している側の人間は、自分の感情を注視することで、これこそ相手が今感じていることだと確信し、相手の感情を理解することができる（自己了解を介した他者了解）。そして、C自分が感じ、理解していることを相手に伝えれば、相手にとっては心理的に大きな救いとなる。

まず、共感された側の人間は、苦しんだり、悲しんだりしているとき、誰かが共感してくれると、「ありのままの自分」が受け容れられたように感じ、不安がやわらいだり、安心感を得ることができる。(注2)アダム・スミスが指摘したとおり、共感は相手の歓喜を活気づけ、相手の悲嘆を軽減する。共感を得ることで、私たちの否定的感情（寂しさ、焦り、悲しみ、怒り）は緩和され、肯定的感情（嬉しさ、喜び）は増幅するのだ。それは、自分の気持ちが理解され、肯定されたように感じるからであり、自分の存在そのものが受け容れられたことへの安心感、つながりの充足感とも言える。共感は「偽りの自分」を演じる苦しみから解放し、無条件の承認の実感を与えるのである。

それだけではない。共感されることは自己了解を促し、気づかなかった本当の自分を自覚するための重要な契機となる。

私たちは誰かに共感されると、自分の感情は正しい反応であり、相手に受け容れられている、という嬉しさを感じる。自分の感情、思考は大丈夫だ、そう感じることができる。しかし、強い不安を抱えている人は、自分の感情や思考に向き合う余裕を失い、自分のことがよくわからなくなっているため、共感されることで「自分の気持ちをわかってくれた」とは感じない。そうではなく、はじめて「自分の本当の気持ちがわかった」と感じるのだ。

これはつまり、共感によって自己了解が促された、ということである。

たとえば、自分の悩みを打ち明け、モヤモヤしたものを信頼できる人に語っているとき、相手が共感的な態度を示してくれると、自分の語りに自信と安心が生まれ、どんどん自分の語っていることがクリアになっていく場合がある。相手は相槌(あいづち)をうっているだけなのに、勝手に自己理解が進展する、そんな感じである。

（中略）

このように、私たちは共感してくれる相手の表情や言葉から、自分の感情にあらためて気づかされ、自己了解を得ることができる。どんな自分でもこの人は受け止めてくれる、という安心感が生じるため、真摯に自分と向き合えるようになり、自分のよくない思考や行動も自覚（自己了解）できるようになるのだ。すると、自分がこれからどうしたいのか、どうすべきなのか、その可能性も見えてくる。

こうした原理は、心理的治療や看護、介護、保育などにおける心理的ケアに共通するものであり、だからこそ、これらの領域では共感が重視されているのである。

もっとも、なぜ共感が心理的ケアに必要なのか、その点を明確に述べている文献は少ない。大抵の場合、共感が安心感や癒(いや)しを生み出す、という私たちの日常的な実感に即した説明がなされているだけである。確かにその説明は間違ってはいないのだが、さらに踏み込んで考えると次のように言うことができる。共感は自己の存在そのものが承認された実感を生み、そのことによって、自己了解が促され、D自由に生きる可能性をもたらすのだ、と。

（山竹伸二『共感の正体 ―― つながりを生むのか、苦しみをもたらすのか』による。
なお、本文中に一部省略したところがある。）

（注）1　ヒューム ―― イギリスの哲学者。一七一一～一七七六年。
2　アダム・スミス ―― イギリスの哲学者、経済学者。一七二三～一七九〇年。

問1　傍線部A「人間と動物の共感の大きな違い」とあるが、両者の共通点と相違点を整理するために高校生が次のような【メモ】を作成した。空欄 I 、 II に入る内容として最も適当なものを、後の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。 11 、 12

【メモ】

・共通点…人間も一部の動物も［　I　］点。
・相違点…人間は動物と違って言葉を使用することができるので、［　II　］ことで複雑な共感が可能になる点。

I　11

① 共感を契機として相手の立場を考慮した道徳的行為を行うことができる
② 同じ境遇や状況の中で長い時間ともに過ごす相手に共感が生じやすい
③ その場に居合わせたもの同士の感情が同期することで共感が生じる
④ 共感を伴う推論の力によって、精神的ケアを行うことができる
⑤ 怒りや苦しみ、妬みなどの根源的な感情については共感することができる

II　12

① 相手の気持ちを言葉で確認したり、自分から気持ちを伝えようとしたりする
② 感情を言葉によって細分化したり、自己イメージを言葉で主体化したりする
③ 言葉を通して未来の世界を創造したり、過去の世界を隠蔽したりする
④ 自我に関わる感情を言語化したり、他者の内面をその状況と共に推し量ったりする
⑤ 相手のために行動を起こしたり、じっくりと話を聞いてあげたりする

問2　本文中の空欄 X に入る表現として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 13

① 共感は享楽的な自己満足に陥ってしまう
② 共感は独善的な他者理解に陥ってしまう
③ 共感は構造的な同族嫌悪に陥ってしまう
④ 共感は抽象的な空理空論に陥ってしまう
⑤ 共感は虚無的な形式主義に陥ってしまう

問3　傍線部B「私たちは見知らぬ人よりも」で始まる形式段落の【文章】と、次に示す【資料】について高校生5人がそれぞれ読み取ったことを話し合った。【文章】と【資料】の趣旨に最も近い発言を、後の①～⑤の中から一つ選びなさい。 14

【資料】

京都大学総長で人類学・霊長類学者の山極寿一（やまぎわじゅいち）氏は、「サル化する人間社会」というセミナーの中で「何の疑いもなく、何か困ったら頼ることができる人、つまり『社会資本』（ソーシャル・キャピタル）のマキシマムな数」は「一五〇人」だと述べている。一五〇人というのは、「言葉によってつながっているのではなくて、過去に何かを一緒にした記憶によって結びついている。何かの行為という記憶が接着剤になっているわけです。私は年賀状を書く時に思い浮かぶ人数だと言っております」と語り、「過去に何かを一緒にした記憶」とは「共感力を発揮した記憶」であり、「共感力」の反映できる数が一五〇人だというのだ。二〇〇万年前から大きくなり始めた人間の脳は、集団の規模が拡大するのに合わせて、六〇万～四〇万年前に当初の三倍に膨れ上がった。その大きさは一五〇人規模で暮らすのに適した「社会脳」だという。その脳の大きさは生活様式が変化し集団規模が拡大しても変わらない。つまり、「人間の脳で作る共同体の規模、つまり信頼関係を構築して一緒に暮らす仲間の数は増えていない」とされる。

（今中博之『社会を希望で満たす働きかた　ソーシャルデザインという仕事』による。）

① Aさん…【文章】と【資料】はそれぞれ、「共感」の生じる場面について共通点があるね。状況や場面の共有を通して互いに共感しあうことで自然と信頼関係が結ばれるという点は、僕自身も日々の生活で経験があるよ。

② Bさん…【資料】には、社会において共通のルールを守り秩序を作り出すために、一五〇人規模の小さな集団で共感性を育むことが重要だとあった。そういった意味でも【文章】にある通り、共感が文化を形成すると言っても過言ではなさそうだね。

③ Cさん…【資料】で、人間は共感性をもとに一五〇人規模で暮らすことに適した存在であり、必要以上に人間関係を広げることは無益であると述べていた。人間の脳のキャパシティは、生活様式が変化しても変わっていないというのが興味深い。

④ Dさん…私は、信頼関係を深めるためには、言葉を介することなく関係を構築することも必要になるということを【文章】と【資料】から読み取ったよ。想像力を用いて、他者の思考や感情を推理することで、自（おの）ずと信頼関係も深まっていくんだね。

⑤ Eさん…【文章】では、人間はいつの時代も、共感し合うことで信頼関係を構築しなければ生きていけないと筆者は主張していた。人間が集団を形成して、社会的な生物として生きていくためには、共感という力が必要不可欠になっているんだね。

問4 傍線部C「自分が感じ、理解していることを相手に伝えれば、相手にとっては心理的に大きな救いとなる」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 15

① 苦しんでいる相手の気持ちに寄り添うことで、相手は否定的感情から抜け出すための視点を得ることができ、本来の自分の気持ちを思い出すことにつながるから。

② 苦しんでいる相手を受容することで、相手は他者とのつながりを見出し自己を肯定することができ、その充足感に促され利他的な行動にも積極的になれるから。

③ 苦しんでいる相手に励ましの言葉をかけることで、相手は気持ちに余裕を持つことができるようになり、混乱していた自分の気持ちを落ち着かせることができるから。

④ 苦しんでいる相手に親身になって接することで、相手の不安は少しずつやわらいでいき、会話を繰り返すことで自分の気持ちを伝える喜びを感じられるから。

⑤ 苦しんでいる相手に共感を示すことで、相手は等身大の自分を受け容れることができ、自身の感情や思考に自信を持ち、本当の気持ちを理解することができるから。

問5 傍線部D「自由に生きる可能性」とあるが、それはどういう可能性か。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 16

① 自己了解が進展することで冷静に自分を見つめることができるようになり、それが今まで気づかなかった自分の美点を見出すことにつながり、自分を肯定しながら生きることができるという可能性。

② 自己了解が促進することで自分自身を見つめ直すことができ、秘めていた悩みを相手に包み隠さず伝えることができるようになり、自分の気持ちに素直に生きることができるという可能性。

③ 共感されることで自分の発言や行動に自信を持つことができ、より積極的に考えていることを実行に移すことに意欲が生まれ、自分のやりたいことを具体的に実現していくことができるという可能性。

④ 自分の言動についてよい部分も悪い部分も受け止めることで、心理的に落ち着いた状態で自己開示することができるようになり、偽りの自分を演じる苦しみから解放され楽に生きることができるという可能性。

⑤ 自分の思考や行動について、目をつむっていたものもしっかりと向き合うことができるようになることで、自己に対する理解が深まり、今までより深く自己と向き合った生き方を模索することができるという可能性。

問6　本文の内容と**合致しないもの**を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 17

① 共感が発生するとき、同時に自己了解と他者の感情了解が生じており、その結果として相手に対して適切な行動の選択が可能になる。

② 共感とは相手の視点に立って考える力であり、相手に対して親和的な感情が生まれるだけでなく、道徳的行為の動機づけともなる感情共有の核心である。

③ 高度な認知能力を要する認知的共感は、言葉による感情の細分化を経た人間に特有のものである一方、動物や感情が未分化の幼児にはないものであると区別することができる。

④ 共感する能力に加えて、言葉と想像力、推論する力や理性の力を身につけることではじめて、利他的行為を実行することができる。

⑤ 医療や保育の場面における心理的ケアについての共感の重要性はしばしば指摘されるが、共感が心理的ケアに必要である理由についてはあまり踏み込んだ解説はされてこなかった。

3　次の文章を読んで、後の問い（問1～5）に答えなさい。

〔　　〕

奈津子は、中学時代の友人亮子とお茶を飲み、帰路につこうとしている。

地下の食品売り場で一通りの買い物を済ませ、このまま地下鉄駅に向かって帰ろうかという時、奈津子はふと断りを入れた。

「ごめん、一回外出て、(注)丸善寄って行っていい？」

新聞の書評で見かけ、買おうと思っている本があったのだ。若い人が書いた文学賞受賞作で、女性主人公が抱く恋心の繊細な描写が見事だという。

「奈津さん、昔から本好きだったもんね。年取ってからそんなに本読んで、どうするの？」

何年前からなのか思い出せないが、奈津子が本の話題を出すたびに亮子はこうしてからかう。a悪意がないのはいつもの通りよく分かっているが、この時の奈津子はそのまま聞き流せなかった。

「孫にも言われたわ。最近、そういうようなこと」

息子夫婦は揃って休日出勤、夫は仲間とパークゴルフに出かけ、奈津子は朝から一人で蒼空を預かっていた前の日曜日のことだ。

午前中は蒼空が望むままに公園に連れて行って遊ばせ、全力で遊んだ孫は疲れたのか昼食の後はソファで眠り込んだ。

ようやく自分の時間がとれた、と奈津子はダイニングテーブルで読みかけの本を開いた。書店に注文して引き取って来たばかりのワイルド・スワン下巻。刊行された頃は子育てに忙しくて手を出せず、いつか読みたいと思っていた作品だ。上巻は長い時間をかけて読み終えた。

生きた時代も場所も自分とは異なる女性たち。それでも共感できる部分に感じ入っては、頁を繰る手を止めて同じところを読み返していた。

「おばあちゃん、どうして本読むの？」

内容に集中し始めた時、蒼空から声をかけられて奈津子はびくりと顔を上げた。半分瞼を閉じたままの蒼空が、体にかかっていたタオルケットを引きずりながら台所に入ってくる。もっとゆっくり寝ていてくれてもいいのに、と思わずにいられない。

「もう起きたの。本読むのは、そうだねえ」

かける声に(ア)棘が混ざらないように気を遣った。

「そりゃ、色んなこと知れるからね。そうしたら、生きていく役に立つし」

「もうおばあちゃんなのに？」

蒼空は純粋な表情をしていた。まるで、どうして空は青いのか、どうして虫はすぐ死ぬのか、そういった疑問と同列に、真っすぐA奈津子の柔らかいところを突いてきた。自分の残り時間が何年なのか、常に考えてしまう柔らかくて弱い部分を。

孫に何と言葉を返したのかは覚えていない。子ども特有のb悪意のない、ただ純粋な感性から放たれた言葉なのは分かっている。それでも、奈津子はあの時読んでいたワイルド・スワンを読み終えることができず、本棚の隅で(イ)埃をかぶらせている。

「子どもって時々残酷なぐらい本当のこと言うものねえ」

書店へと向かう道すがら、話を聞いた亮子は困ったように笑った。

「あ、ごめん、悪い意味で言ってるんでなくてさ。この年になるとさ、なんか、日めくりカレンダーに書いてあるような『一日一善が魂を美しくする』『悪人こそ最良の師』みたいな、人生をより良くす

る言葉っていうの？　そういうの、もう、役に立たない気がして」

慌てたように付け加える亮子に、奈津子も「わかるよ」と頷く。亮子は奈津子から視線を外し、前を見た。c心なしか、歩幅が小さくなる。

「役に立たないっていうのも違うか。なんか、自分をより高みに持っていく努力をするよりかさ、残りの人生楽しんだ方がいいかなって思っちゃって。例えば、目の前にある美味しそうなケーキを一個食べなかったら寿命が一か月長くなるって言われても、だから何？　って食べちゃう、そんな感じ」

安直な言い方に見えるが、Bそこには亮子なりに真っ当な道理がある。亮子は胸の前で手を合わせながら言った。

「ごめん、あくまであたしの場合ね。だから、奈津さん凄いなって思ってるの。自分はそうはできないって意味で」

「うん」

うまく説明できる気がしなかったので、奈津子は曖昧に頷いた。自分が本を読む理由は、知識欲とか、教養を高めたいからだけではない。

これまでの人生で積み木のように重ねられてきた意識の中に、何か、決定的な隙間があるような気がするのだ。欠落といってもいい。

奈津子はこれまで、おおむね望ましい生き方ができていたと思っている。自由恋愛の果てに家庭と子を持ち、今は孫にも恵まれた。趣味も友もある。もちろん、何もかも望む通りにとはいかないが、大きな不幸や病気もなく、ささやかな幸せを積み重ねてきた。

なのに、ぽっかりと空いた空洞が、奈津子を怖がらせるのだ。何か、とても恐ろしいことがあってその空洞はできたのに、なぜそれが起こったのか、思い出せない。そんな恐ろしさと気持ち悪さを自覚すると、d首筋を冷たい手で触られたような気になる。

奈津子の日々の生活は、ほとんど揺るぎない。夫と生活し息子一家を支えるだけで、何も大きな変化など起きない。ならば、自分の中に取り入れる情報を増やすしか、その空洞を埋める手段が見つからないではないか。奈津子はそう思って、穴を文字で埋めるかのように本を読み続けてきた。加齢が進み、老眼が年々厳しくなる中で、あれこれ読みたいというe願望だけが貪欲に膨れている。

書店に向かう道すがら、話題を変えて今年の灯油代について話している亮子に曖昧な相槌を打ちながら、奈津子は前日の晩に夫が話していたことを思い出していた。テレビで自分たちと同じ年代の俳優が再婚したというニュースを眺めている時だった。

「最近聞くじゃないか。老いらくの恋とか、みっともねえよなあ」

へっ、とf日本酒臭い息を吐きだして、夫は少し意地悪そうに笑った。奈津子は「そうだね」と相槌を打って最低限の同意を示す。

別に、夫の意見に異論がある訳ではない。自分は今さら恋愛沙汰に興味も持てず、物語で主人公の色恋が差しはさまれても何の共感もできないかもしれない。夫にしても、それこそこの年になって他所に若い女を作られるよりは、適当に枯れ切った夫婦関係のまま人生が完結しつつある現状がどれだけありがたいことか。

「みっともねえ」

夫の声がやけに心に張り付いている。その通りなのに、脳裏で繰り返される声を不快に思う。何が悪いの。年を取って、恋愛でなくとも新しい何かをすることに、あるいは手にしていたものを取り戻そうとすることに、どうして（ウ）呵責を持てというの。

奈津子は結局その日、目当ての本を買わなかった。書店に入って目の前の本棚に並んでいるその本

を素通りし、代わりに来年の手帳を手に取った。毎年同じメーカー、同じデザインの紺色をしたビニール表紙の手帳だ。

孫を預かる予定。夫の外出に付き合う予定。釧路の母を見舞いに行く予定。書き込むであろう内容は、たぶん、今年と大きく変わらないだろう。手にしてすぐに奈津子は手帳をもとの場所に戻し、色違いのデザインに手を伸ばした。黄、青、緑などの表紙が並ぶ中から、C鮮やかな赤の一冊を取り、会計を済ませた。

たとえ外側一枚だけであっても、新しいものに変えてもいいではないか。たとえ書き込む中身に違いはなくても、生活の何もかもが変わりばえせず、ぽっかりと空いた空洞が埋まらないままなのだとしても。

（河﨑秋子『鯨の岬』集英社文庫による。）

（注）　丸善 —— 丸善書店のこと。

問1　傍線部（ア）～（ウ）の語句の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。 18 、 19 、 20

（ア）　棘が混ざらないように　 18

① 相手を見下す気持ちが表れないように
② 怒っていることがばれないように
③ 気分が悪いことを隠すように
④ 意地の悪い言い方にならないように
⑤ 深刻な雰囲気にならないように

（イ）　埃をかぶらせている　 19

① そのまま本に興味を失っている
② ずっと読まれないままになっている
③ きちんと大切なものとして保管されている
④ 長い間手入れせず汚してしまっている
⑤ すっかり所在がわからなくなっている

（ウ）　呵責　 20

① 自分を厳しく咎め立てする気持ち
② 揺るぎない自信に満ちた気持ち
③ 強く自分を鼓舞する気持ち
④ 無理に自分と人とを比べる気持ち
⑤ 必要以上に自分を装う気持ち

問2　傍線部A「奈津子の柔らかいところ」とあるが、これは奈津子のどういう心情を表しているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 21

① ささやかな幸せを積み重ねてきたが、あと何年生きられるかを否応なく考えさせられ死への不安とともにこのままではいけないという激しい焦りを感じている。

② 夫や息子夫婦といった家族とうまくやってきたが、年を重ねるとともにいつまで夫婦関係を良好に保つことができるのかという不安を感じている。

③ 知識欲や教養を身につけたいと思いこれまで読書に励んできたが、確かにあと何年生きることができるかを考えると読書をする意義に疑問を感じている。

④ ほぼ満ち足りた人生を歩んできたが、それをそのまま肯定できない不安につながるような、老い先の短さにあらがえない無力感を覚えている。

⑤ 人付き合いがあまり得意ではなく、これまで自分の世界に閉じこもりがちであったが、これから残りの人生は、視野を広げていこうと前向きにとらえている。

問3　傍線部B「そこには亮子なりに真っ当な道理がある」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 22

① 亮子は、奈津子が読書から教訓を得ようとしていることを頭では理解しているつもりだが、やはり人生教訓よりも目の前の楽しいことの方が残り少ない人生を生きていくうえで意味があると思っており、その考えをそれとなく奈津子に伝えようとしているということ。

② 亮子は、自分の考え方が浅はかだと思いながらも、長生きするよりも今を楽しく生きることを優先した方が豊かな人生を送ることができるというのは普遍の真理であると思っており、奈津子に申し訳なく思いながらも自説を語らずにはいられないでいるということ。

③ 亮子は、奈津子にアドバイスをすることができるのは自分だけだと思う使命感から、年を重ねた自分たちがあえて本を読み人生教訓を学ぶ必要はないという事実を理解してもらうため、ぶしつけではあるが正直に考えを伝えようとしているということ。

④ 亮子は、奈津子のことを尊敬しながらもどこか奈津子の考えに賛同することができず、人生をより良くする教訓など実は生きていくうえで大した意味がないのではないかという自分なりの考えを伝え、奈津子にも共感してもらいたいと思っているということ。

⑤ 亮子は、奈津子が読書をすることの意味を全否定しているわけではなく、読書から得られる人生教訓よりも現実をいかに楽しく過ごすかを考える方が年を重ねた今となっては生きる喜びにつながるという実感を素直に奈津子に伝えているということ。

問4　傍線部C「鮮やかな赤の一冊を取り」とあるが、ここからうかがえる奈津子の心情の説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 23

① また同じような一年を過ごすのだろうと思いながらも、年齢にかかわらず新しいことをしてもいいという思いがわき起こり、ささやかなことから新たな挑戦をしようと思うようになってきている。

② これまでのように変化の乏しい人生を歩んでいくのではなく、残りの人生は他人の意見に左右されることなく、自分なりに様々な変化をつけながら生きていこうと思うようになってきている。

③ これまでは決まりきった予定を生きるだけの変わり映えのしない人生を送ってきたが、これからは自分で予定を立て、刺激に富んだ鮮やかな日々を過ごそうと思うようになってきている。

④ これまでは冷めきった夫婦関係を受け入れて当たり前のことと思っていたが、これからは夫との関係を修復し、一緒に老後の時間を楽しめるように努めていこうと思うようになってきている。

⑤ これまでは読書だけが心の慰めであったが、これからは虚構の世界ではなく自分が直面している現実に目を向けることで、残りの時間を豊かに生きていこうと思うようになってきている。

問5　波線部a～fの内容や表現に関する説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 24

① a「悪意がない」・b「悪意のない」という同じ表現を亮子の発言と蒼空の発言に対して用いることで、それらの身近な人たちの純粋な疑問を契機として、奈津子自身が抱える本質的な悩みに自然と向き合う様を表している。

② c「心なしか、歩幅が小さくなる」という表現から、亮子が不用意な発言で奈津子を不愉快にさせてしまったことを申し訳なく思い、なんとかこの場を取り繕う行動をとらなければと思い焦っている様子がうかがえる。

③ d「首筋を冷たい手で触られたような気になる」という表現は、幸せな人生を歩んできたつもりであったが、選択を誤ったことでいつのまにか不幸な人生へと引き寄せられていくであろう奈津子の運命を暗示している。

④ e「願望だけが貪欲に膨れている」という表現から、手あたり次第に情報を取り入れることで自分自身の心の中の孤独を埋めようとする自分自身を、浅ましい存在として恥じている様子がうかがえる。

⑤ f「日本酒臭い息を吐きだして、夫は少し意地悪そうに笑った」という表現から、冷え切った夫婦関係が続いたことで、軽率な発言をする夫のことを不愉快に思う奈津子が一方的に彼を見下している様子がうかがえる。